

文部科学省 産業連携・地域部会  
イノベーション対話促進作業部会  
2013年3月26日(火)

# COIプログラムに向けた イノベーション対話の試み

平川秀幸

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (CSCD)  
准教授

# 1. 革新的イノベーション創出プログラム COI STREAM

平成25年度予算額：16,221百万円の内数（新規）

## 問題意識

日本発のイノベーションがほとんどない中、激しい国際競争の下、我が国の成長戦略として、革新的イノベーション創出の実現は不可欠。

## 解決すべき課題

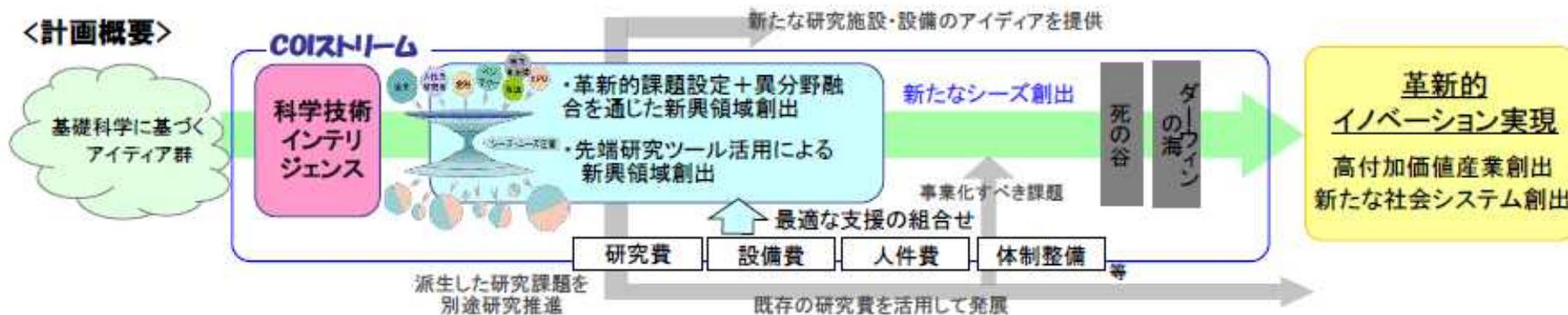
- 研究活動が既存分野領域に固執傾向にあり、新規・融合分野の活動が低調。産業構造と其の変化へのミス・マッチ。
- 企業では、大きな成果が期待されても、リスクが大きく開発が困難なものについては取り上げ難い。
- 産学連携が形骸化している。
- 研究成果が革新的、破壊的イノベーションに繋がらない。
- 日本の国際競争力を再びトップクラスとするには、他の追従が困難な独創的技術を連続的に創出することが必須。
- 日本の研究力の国際的プレゼンスの低下傾向加速。一方で、研究力が急激に向上している国もあり、戦略的な取組が急務。

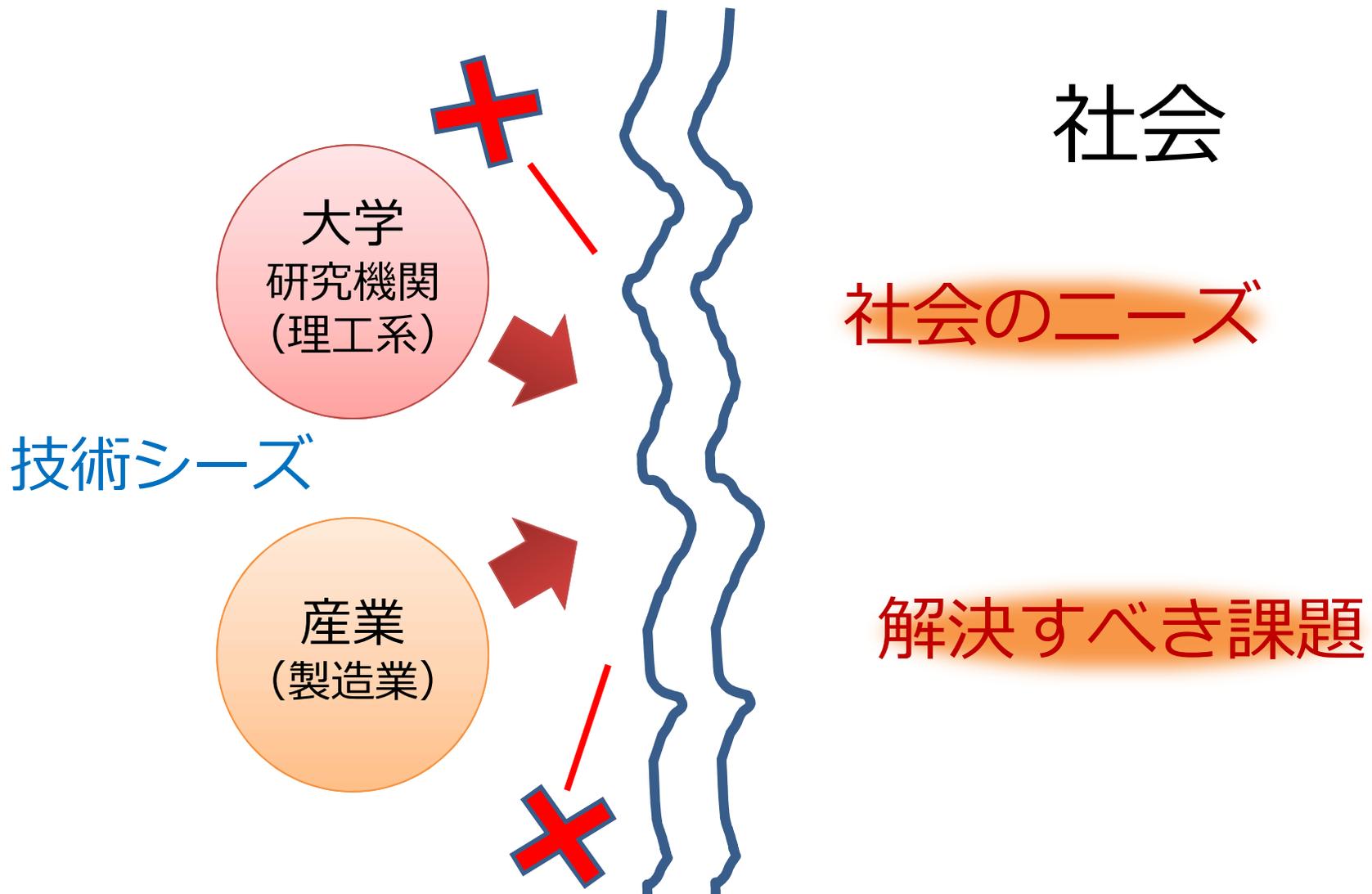
## 解決策



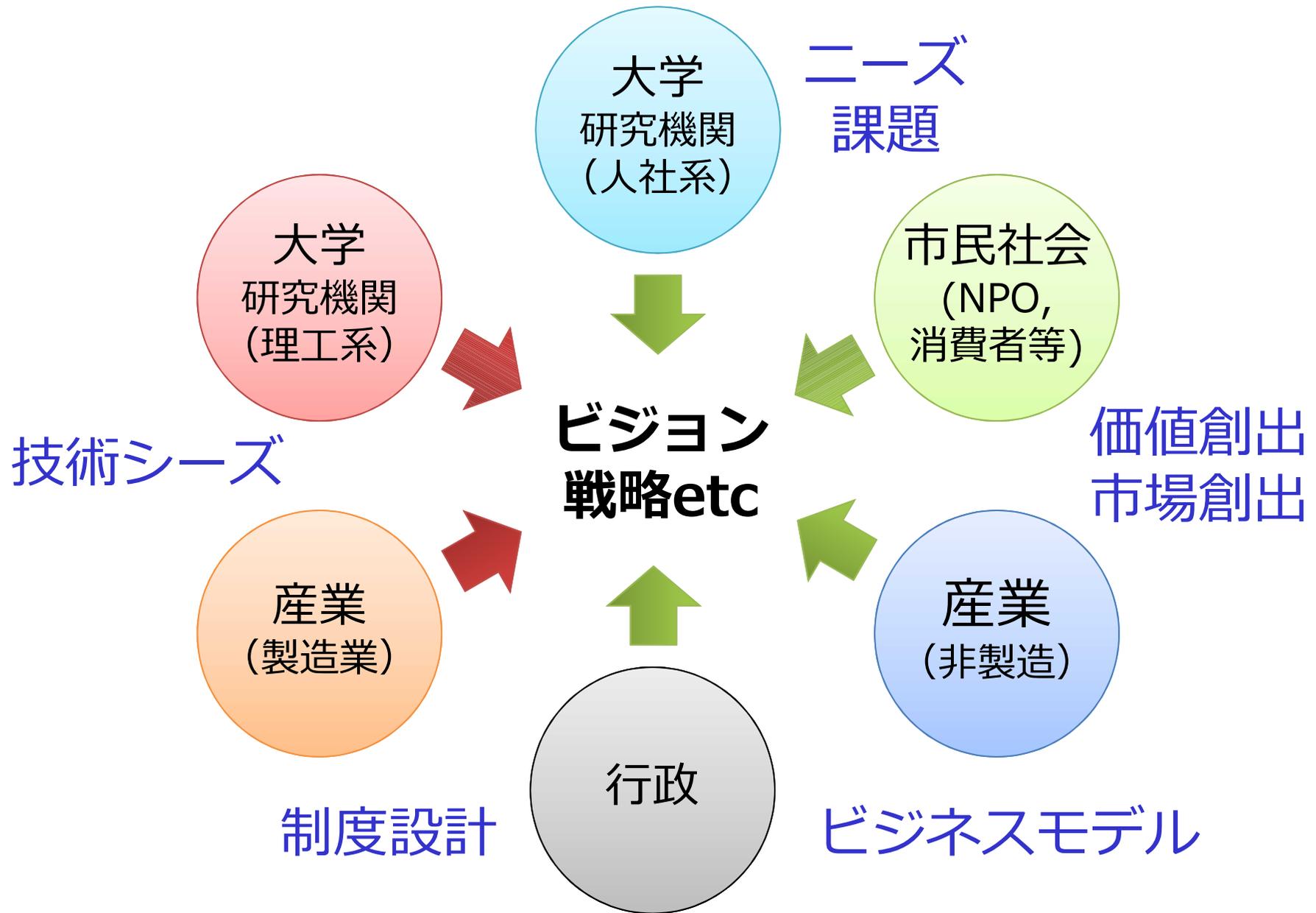
日本を取り戻すイノベーション実現へ！

## <計画概要>





これまでの産学連携



# イノベーション = 新しい“レシピ”のもとでの 素材の新結合

*“Economic growth springs from  
**better recipes**, not just from  
more cooking”. (Paul M. Romer)*

New Recipe  
Xxxxx  
Yyyyy  
Zzzzz  
...



# レシピの構成

- 技術シーズ
- ニーズ（顕在／潜在）
- 社会的課題（顕在／潜在）
- 価値創出
- ビジネスモデル
- 制度設計
- 品質管理／リスク管理（ELSI含む）

などなど…

# どうやってレシピを創案するか？

## 学術的アプローチ

人文・社会・自然科学による研究・調査・メタ分析

データマイニング

ホライズンスキヤニング

問題構造化

フォーサイト

シナリオ分析

## ソーシャルアプローチ

シナリオ  
ワークショップ

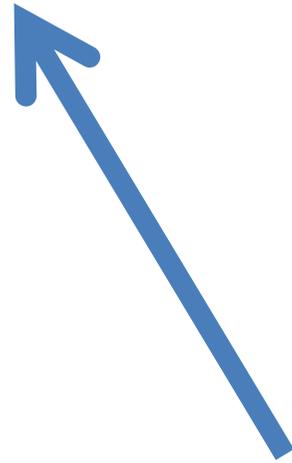
= イノベーション対話

多様な社会のアクターとのコミュニケーション

コンセンサス会議

フューチャーセッション

# COIワークショップ



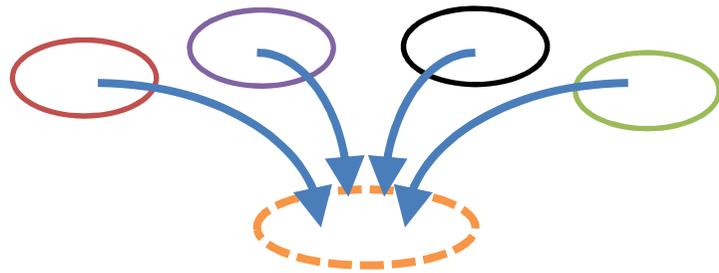
## ソーシャルアプローチ

= イノベーション対話

多様な社会のアクターとのコミュニケーション

## フューチャーセッション

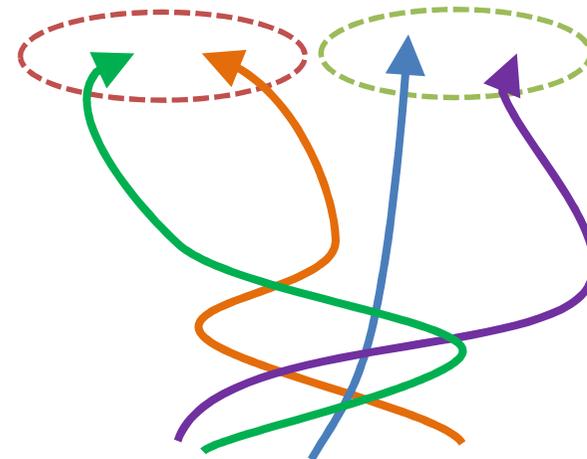
# フューチャーセッション



合意形成  
意思決定 ではなく

## 創意形成の場

多様な関係者が集まり  
創造的に多くの可能性を探り  
一緒に未来を創って行く方法



# 試み1： 文科省&JST主催 COIワークショップ

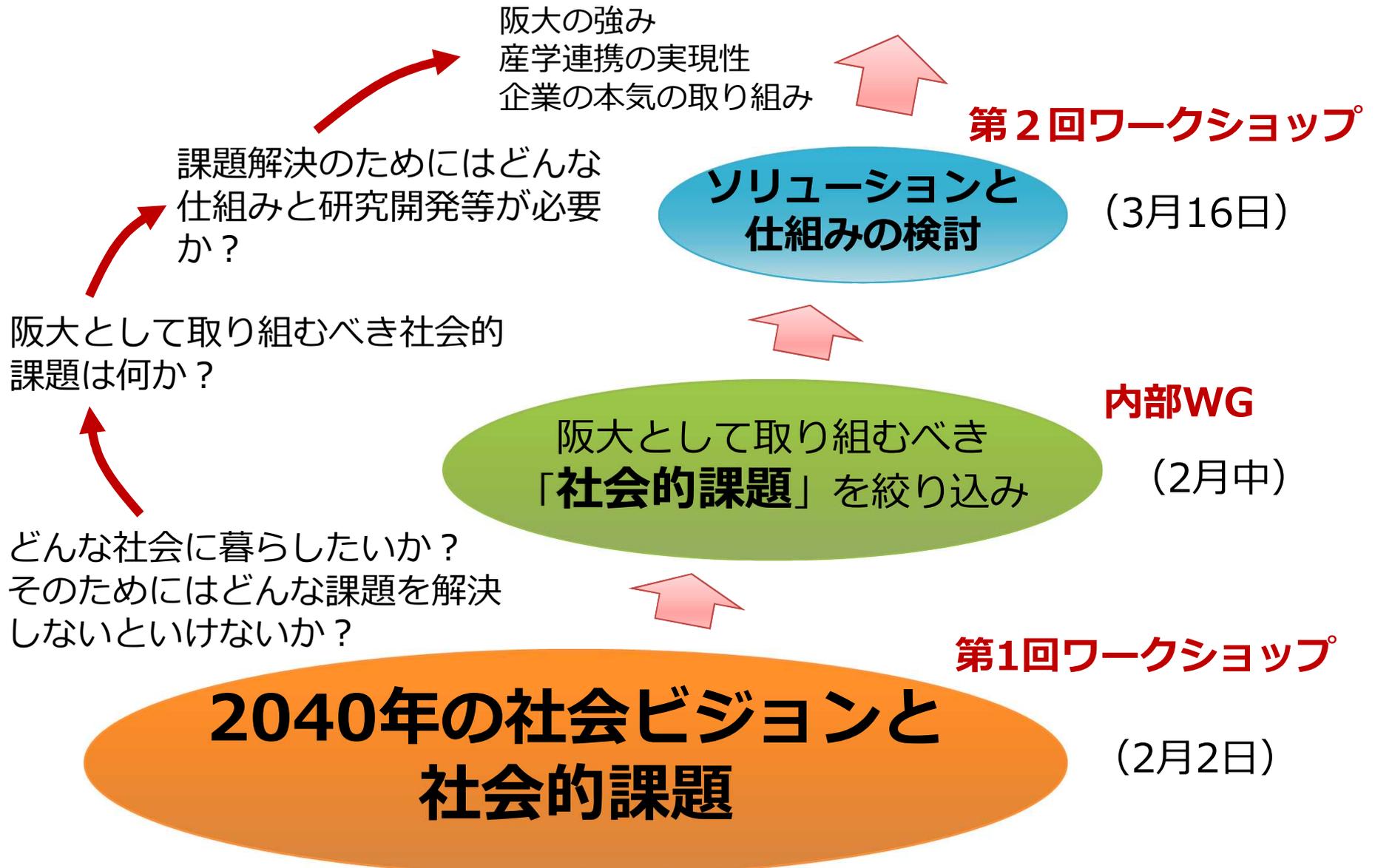
# 文科省 & JST COIワークショップ

- 2012年11月30日 日本科学未来館
- 48名参加
- 内訳：
  - 理工系研究者
  - 人社系研究者
  - 製造業
  - 非製造業
    - 広告、デザイナーetc
  - NPO
  - 行政
- 企画・運営：
  - JST科学コミュニケーションセンター+ (株)フューチャーセッションズ
- ファシリテータでは未来館の科学コミュニケーターも協力

**試み 2 :**  
**阪大COIワークショップ**

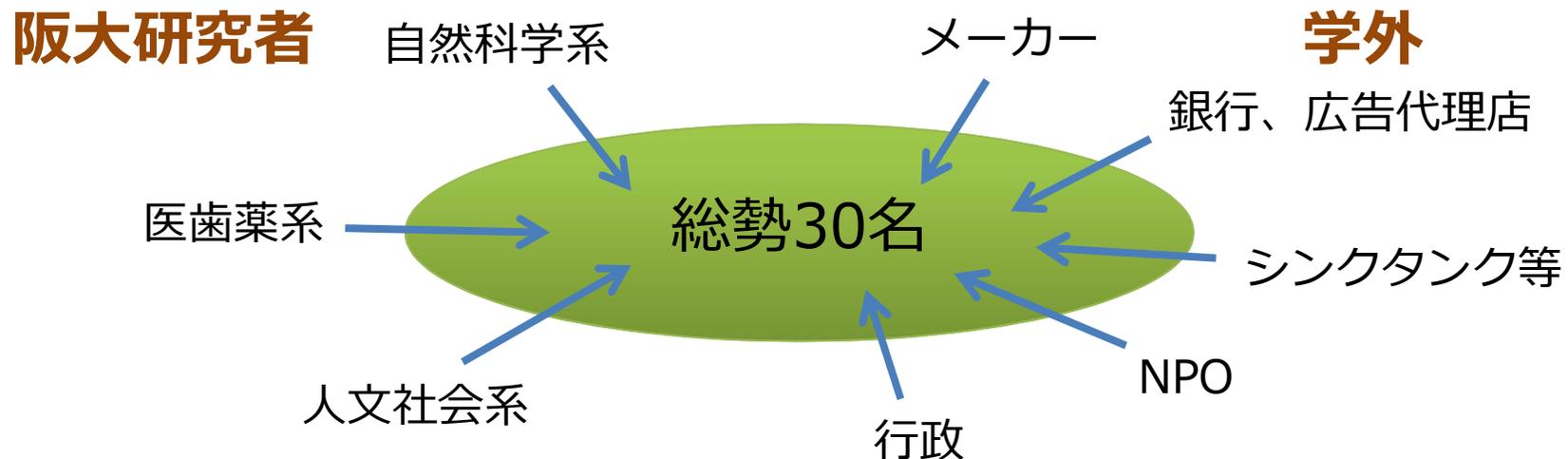
# 全体の流れ

## 阪大COIの提案へ



# 第1回の概要（1）

- 2013年2月2日（土） 10:30 – 16:30
- 多様な参加者で**2040年の社会ビジョン**を描き**社会的課題**を探る



# 第1回の概要（2）

## ●プログラム

- グループ討論①：ビジョンについてのアイデア出し
- ランチミーティング
- グループ討論②：ビジョン案のとりまとめ
- 全体討論：成果の共有と議論

ファシリテータは常に議論の範囲や制約への意識を促しながらも、参加者はアイデアを自由に発散させて議論をしてもらう。

議論の成果イメージを意識してもらいながら議論を収束させる。

# 第1回WSの設計1

- 「多様な参加者で2040年の社会ビジョンを描き社会的課題を探る」という文部科学省からの課題に対し、学内の制約条件を把握した上で、「質の高い」場をつくりあげる。



- **WS設計チームを設置**（メンバー構成：産学連携、科学技術政策、科学技術社会論、都市・環境政策の分野で活躍されている方々）
- **ファシリテータによる全体進行**（中立な立場を保ちながら話し合いに介入し、議論をスムーズに調整し、参加者による創意工夫の場となるよう支援）
- **参加者構成**（テクノアライアンス棟入居企業、企業（ベンチャー、シンクタンク等）、人文社会系、理工系、医歯薬系、パブリックセクター）

# 第1回WSの設計2

- 参加者の役割：大阪大学としてCOIを提案するためのアイデアを提供する人。（意思決定者ではない）
- 議論の制約：いくつかのキーワードを含む2040年の社会をイメージする。
- 議論の範囲：人材育成に関しては議論をしない。

# 第2回の概要

- 2013年3月16日（土） 12:00 – 16:40
- 学内外から27名参加、4グループで討論
  - ワールドカフェ手法をベース
- プログラム
  - グループ討論①：新しい阪大COIモデルを考える
  - グループ討論②：必要な取り組みを考える
    - 技術開発や社会制度など、どのようなソリューションが必要か、など
  - グループ討論③：できそうなことを考える
    - 自分／所属組織・分野ができそうなこと、関心のあること、関わりたいこと、など
  - 成果の共有

# COI-WSをふりかえる

- 心がけたこと = 発散型の対話にする工夫
  - 参加者の多様性
  - シャッフル（ワールドカフェ手法等）
- 課題
  - 元来は、議論の結果そのものよりも、人の新しいつながりやコミットメントが生まれることが大事
    - ・ これまでのCOI-WSはやや変則的
  - 女性・若手・人社系の確保
  - 学内外の人の発掘とネットワーク作り
  - 俯瞰的議論ができる方々の発掘
  - つきあう部局が様々であり、その部局ごとのお作法と折り合いを見つける難しさ。
  - フォーマル／インフォーマルな継続的対話の場・機会確保

# 今後の課題

- ツールボックスの整備
  - 具体的な研究開発やビジネス化のコミットメントを促す工夫も含めて
    - 収束型、問題解決型の対話
- 人材活用・育成
  - コーディネータ人材と外部ネットワーク
    - プロと協働して企画・運営できる人
    - ファシリテーション等は既存のプロに／自らもファシリテーションできる人
  - 既存人材の能力拡張
    - URA、科学コミュニケーターなど
  - 活用の場作りが重要
- 異種領域（非科学技術系）との交差の増大